

全国納税貯蓄組合連合会優秀賞

税はみんなの財産

熊谷市立小島中学校 三年 高橋 諭

中三の夏休みといえば受験生にとっては“天下分け目”の大切な時間である。夏休み前の面談で担任の先生から図書館を利用し、塾以外の時間も勉強にあてるようにということ言われた。今年から図書館にはエアコンがつき、一人あたりの蔵書数をふやすことになった。今まで自分で読みたい本があっても、限られたおこづかいで、何冊も本を買うことはできない。しかし図書館にリクエストしておく、大抵の本が取り寄せられ、読みたい本が手に入る。今年は数回にわたり、リクエストがとられ、楽しみも倍増した。そんな楽しみのたくさんころがっている図書館に僕は、通いつめた。午前中、学校へ行き、午後は塾というくり返し。おかげで昨年よりも宿題に早くとりかかれたように思う。

図書館がなかったらどうなっていたことだっただろう。

このような図書館などの公共施設を始め、学校で使っている教科書、机やいすなどの備品類、校舎、体育館、プールなど、きちんと教育を受け、様々な体験ができるのも、税金のおかげと思い感謝する。

しかし、世界に目を向けてみると、経済的に不安定な国が多くあることを国語の授業で学びました。ごはんを買うお金がなく飢えて死んでしまう子供、勉強したくても学校にいけない子供が多くいるのだ。それに比べ日本は未来があり、やりたいと思うことが希望どおりにできる。

私達国民から集めれた税金のゆくえをさぐっていきおどろくことがあった。一番は国債費、次は社会保障関係費、そして経済協力費である。

今なお、多くの人々が貧困や飢餓に苦しんでいる。経済協力の中には資金協力や技術援助などが上げられる。この援助額が世界で一位だということだ。

国際協力にあてる費用はこれからの国際社会の中でとても大切である。そして世界中の人々すべてが日本のように豊かで明るい国となり、援助する必要がなくなっていくことが一番のぞましいが。

私達の税金の使いみちや役割について作文をかきながら考えてみた。

今私達生徒に一番必要なことは次の世代を明るく豊かな世の中にするために、たくさんの知識、やさしい心を持つことだ。

この豊かな環境の中でこれからも一生懸命勉強していきたい。みんなの財産である税を活かしていくために。